

コラム

花がもたらす柔らかい時間



インタビューさせていただいたある学年主任さんの取組を物語風にまとめてみました。

赴任した時から、学校が殺風景だったのが気になっていました。

「温かみのない雰囲気や殺伐とした環境では、キレイやすい言動が気にならなくなるのでは...。」そんなことを感じました。



4月当初、新入生の担任に「生徒の心を育てたい」ということが共通にあったので、何かできないかと相談しました。そこで、花を育て、教室や廊下に花を絶やさないようにしようということになりました。

人間関係でふんわりと受け止められる気持ちを育むためにも、生徒と一緒に何かを大事にすることで「うるおい・あたたかさ・ゆるみ」を感じたいと思ったのです。

早速、学年の職員は入学式の前日には花を買い、教室に飾り、そこから1年がスタートしました。

この学年の取組を学年通信でも知らせ、「家に花があったら持ってきてもらえるとうれしい。」ということも呼びかけました。学年のベランダにもプランターを置き、種をまいて花も育てました。

花を育てたり飾ったりしていると、こんなことがありました。

廊下の花を飾り替えたり、水を換えたりしていた時、「先生、手伝おうか？」と、いつも控えめな生徒が話し掛けてきたのです。

その他にも

「先生、あのね...。」

と、表面的には感じ取れなかった悩みや不安や不満を話してくれるようになりました。



花を飾ってみて一番良かったなあ、と思うことは、教師の一方通行の話でなく、クラスの隔たりもなく、自然に生徒の力みのない姿と向き合えたということです。

今日もさりげなく花を整えます。

7名の学年主任さんへのインタビューを通して、一人一人、目が覚めるような素晴らしい実践で児童生徒を育てていました。お話を聞きながら胸が一杯になる思いでした。

7名の学年主任の先生方と教職員の方々には貴重な時間を割いて協力していただき、大変ありがとうございました。